

南会津 のうりんニュース



今月の写真：「田んぼの学校 開校式」

5月1日、南会津町立田島第二小学校の5年生18人を対象とした「田んぼの学校 開校式」が行われました。

また、初めての作業となる「ビオトープづくりと米ぬかまき」も行われ、児童達は楽しみながらも、真剣に作業を行っていました。今後、5月下旬には「田植え」が行われる予定です。

今月の内容：

- 着任雑感
- 今月のトピックス
 - ・「緑の募金」活動 ほか
- 特集！！
 - 南会津の特徴を活かした農業・農村の活性化
- 農林事務所からお知らせ
- 集落営農情報
 - 只見町二軒在家集落の取り組み

平成18年5月17日発行 福島県南会津農林事務所

着 任 雑 感

(オアフのスーパー(野菜・果物編)の話)

南会津農林事務所長 鈴木 伸司

ホノルルには至る所にABCストアがあり、水や弁当・ビール・ビーチサンダル・サンオイル・浮き輪・ござなど、観光客が滞在中に必要なものは全て揃っている。また、おみやげのチョコレートやTシャツもどっさり売っている。そして、果物はほとんどがカットされパック詰めになっており、そのまま食べることが出来る。お目当てのアボカドはABCストアでは買えない。ダイエー・フードランド・Kマートなど地元の人たちが利用するスーパーを覗いてみよう。最近では日本からの観光客も結構買い物をしている。安いのでお土産を買うなら地元のスーパー

などは穴場である。

野菜・果物のコーナーに行ってみると、日本のスーパーとは雰囲気まるで違っている。1個いくら、あるいはひと袋いくらという売り方はしていない。全て量り売りで1ポンドいくらの価格表示である。巾1mもあるバナナも大きい房のまま売られている。欲しい分だけ房から自分で取り分けてレジに持っていくと、レジのお姉さんが重さを量って売ってくれる。お目当てのアボカドも青いものから黒くなった食べ頃のものまでたくさんある。大きさは日本で売っている2倍は楽にある。大きめのものを2個選んで量りに乗せてみる。このメキシコ産アボカド、日本円に換算すると1個300円ぐらいになる。グラム単価では日本より若干安いぐらいだが、なんとと言っても大きさが違う。もちろん、美味さも違う。

袋の中にはアボカドのほか、アヒポキ・ターキーハム・パクチー・スパむすなど。ずっしり重いのはパドワイザー。冬の太陽は海に沈む。圧巻だ。さあ、今日も飲むぞ！！

今 月 の ト ピ ッ ク ス

「緑の募金」活動

去る4月25日(火)に、南会津地方緑化推進委員会の主催による「緑の募金」街頭募金活動が実施されました。この募金活動は、南会津町立田島第二小学校緑の少年団の皆さんと南会津町の協力を得て、毎年4月1日～5月31日の「緑の募金運動推進期間」に、南会津町内で行われているものです。

今年は5年生18名からなる少年団員が、町内の3箇所に分れて募金活動を展開しました。当日は風が強く、肌寒い1日でしたが、子ども達の元気な呼び掛けに多くの人々が募金をされ、今年も沢山の善意が

集まりました。募金をいただいた方々には、緑の羽根のほか、これまでの募金によって購入した花の種や苗木などが配られました。これら



「緑の赤ちゃん」達も、今後南会津地方の緑の一員として加えられ、私たちの暮らしの中に彩りを添え、潤いを与えてくれることでしょう。

(森林林業部)

農地・水・農村環境保全向上支援 実験事業スタート！！

平成19年度から本格的な実施が予定されています農地・水・農村環境保全向上対策をよりよい制度とするため、南会津地方では唯一南会津町たのせ集落(旧館岩村)で本年度に実験事業が行われることになり、去る4月20日(木)その活動組織の設立総会が開催されました。



総会では、規約・活動計画の決定、町との協定書締結の承認、役員選出が行われ、活動組織の名称は、『たのせふるさとづくり会』に決定しました。

たのせ集落では、以前から用水路の維持管理を非農家を含め地区全体で行っており、景観保全のため、水田の畦畔に芝桜を植える活動を行うなど、地域の農地・水・環境保全の取組を先進的に行っていました。

実験事業の活用により、活動がさらにステップアップし、全国の模範となる取組がなされることが期待されています。

(農村整備部)

南会津地方防霜対策本部を設置！

南会津地方では4月中旬から6月上旬まで晩霜による農作物被害の危険があることから、被害の未然防止と技術対策について南会津地方防霜対策本部(地方本部)を設置し対応にあたっております。本年も4月17日に地方本部を南会津農林事務所内に設置し、各町の対策本部も設置されているところ



対策本部の設置
(4月17日)

です。4月24日には南会津地方防霜対策会議を開き、各町の対策本部、JA等の関係機関との連携、作物別の対策について協議を行いました。

平成16、17年には霜害の発生はありませんでしたが、平成15年にリンゴ、アスパラガスで大きな被害を受けていることから、関係機関一丸となって対策にあたることを確認しました。なお、霜に関する相談は近くの役場・JA、または農業普及部まで問い合わせください。

平成16、17年には霜害の発生はありませんでしたが、平成15年にリンゴ、アスパラガスで大きな被害を受けていることから、関係機関一丸となって対策にあたることを確認しました。なお、霜に関する相談は近くの役場・JA、または農業普及部まで問い合わせください。

(農業普及部)

南会津地方水田農業改革推進本部会議 を開催！

南会津地方では水田農業改革の推進に向けて、米の生産・流通体制の強化や園芸産地の拡大や担い手の育成等を通じ、地域農業の再編成を進めています。その取り組みの一環として、「南会津地方水田農業改革推進本部会議」が、去る4月13日に御蔵入交流館で開催されました。

会議では、平成17年度水田農業改革アクションプログラムの進行管理とりまとめ、平成18年度の推進等について協議が行われました。特に、平成18年度の水田農業改革アクションプログラムの推進では、平成19年度目標達成に向け、以下の5つを南会津地域の重点項目として推進し、積極的に取り組むことが確認されました。

- ①特別栽培やエコファーマーによる栽培による環境にやさしい米づくりの推進
- ②生産組織の育成強化による水稻直播栽培の推進
- ③トマト・アスパラガス・リンドウ・カスミノウ等を中心とした野菜・花きの作付拡大
- ④地産地消を核とした生産組織・団地化による大豆の作付拡大
- ⑤認定農業者の育成とこれら意欲ある担い手への農用地利用集積

(農業振興部)

山火事パレードを実施！！

～火の用心 森の恵みを 未来まで～

南会津地区山火事防止協議会主催による山火事予防パレードが去る4月15日に東部地区(旧田島町、下郷町)、22日に西部地区(旧館岩村、檜枝岐村、旧伊南村、旧南郷村、只見町)で実施されました。



パレードでは広域消防本部、会津森林管理署、会津森林管理署南会津支署、町村、森林組合、東北電力、電源開発、南会津地方振興局及び南会津農林事務所の職員等が、広告入り花の種や携帯灰皿を配りながら山火事予防を呼びかけました。

山火事の原因には、主にたばこの火の不始末、火入れ、たき火からの延焼などがあげられ、そのほとんどは人の不注意によるものです。これからの季節は、空気も乾燥し山火事の発生し易い季節となります。また、入山者も多くなることから、注意を促すなど地域ぐるみで山火事予防啓発に努めましょう。

(森林林業部)

南会津の特徴を活かした農業・農村の活性化

「ある男が神様をお願いして、地獄を見学に行きました。するとそこにはおいしそうな料理がありました。でも地獄の人々は、その料理を食べられません。彼らは手に手にスプーンを持っているのですが、その柄が腕より長いので、すくった料理が口元に届かないのです。」

次に神様は、男を天国に案内しました。するとそこにもおいしそうな料理がありました。そして天国の人々もまた、手には柄の長いスプーンを持っていましたが、不思議なことに全員がおいしそうに料理を食べていました。彼らは、スプーンで料理をすくうと自分の口に運ぶのではなく、他の人の口に運んであげたのです。」

これは、有名なトルストイの名作「天国と地獄」の話です。去る3月9日に開催した「南会津農業・農村活性化シンポジウム」において、この話を例に過疎・中山間地域の活性化へのヒントを提案したのは、講師としてお招きした東北ジャイロ流通研究所の小柳剛照さんです。

たしかに、自分さえ助かればよいと思う人たちにとって、柄の長いスプーンは持てあます無用の長物です。しかし、「他の人に食べさせてあげよう」と考える人たちには、スプーンは大変役立つ道具として働いたのです。「自分だけが得したいと思うのではなく相手に得させるとする事が大事であること、自分のところにあるもので使えないモノでも使い方しだいでは使えるモノの変わること」。このことは、皆さんの身近な地域資源でも、感じるができますね？

南郷トマト選果場の「雪室予冷库」は、まさに、時には雪害をもたらす雪(=柄の長いスプーン)を利用した取り組みですね。そうそう、またもう一つの例として、南会津の豊かな自然・農村風景も、ここに住んでいる



熱弁する講師の小柳剛照氏

方々にとっては「日常」の事ですが、都市住民の方々から見れば「非日常」であるのです。それを利用した取り組みが、都市・農村交流(グリーン・ツーリズム)ですね。

あなたの周りにある「柄の長いスプーン」を、一緒に活用していきませんか？

(地域農林企画室)

農林事務所からお知らせ

「食と農の交流フェア」の開催のお知らせ！！

平成18年4月に開所した「福島県農業総合センター」(郡山市日和田町)において、6月10日(土)～14日(水)の5日間に、「食と農の交流フェア」が開催されます。

特に、6月10日(土)と11日(日)には、福島県内の農林水産物や特産物などの試食・物販が行われます。(南会津地域からも、南会津の農産物や加工品などが

物販されます)

また、6月10日(土)には記念講演として農業ジャーナリストの榎田みどり(さかきだ・みどり)氏を講師

に、「食」と「農」に関する講演会が行われる予定です。

その他、県内各地域の伝統料理及び伝統野菜の展示、食品表示に関する研修会、そして農業総合センター探検ツアー(記念品プレゼント有り!)など、家族連れでも楽しめるイベントも行われる予定です。ぜひ、皆様もご家族・友人お誘いの上、足をお運び下さい。

詳しい内容・場所等については、地域農林企画室までお問い合わせ下さい。



← 農業総合センターへのアクセス
住所 郡山市日和田町高倉字下中道116番地

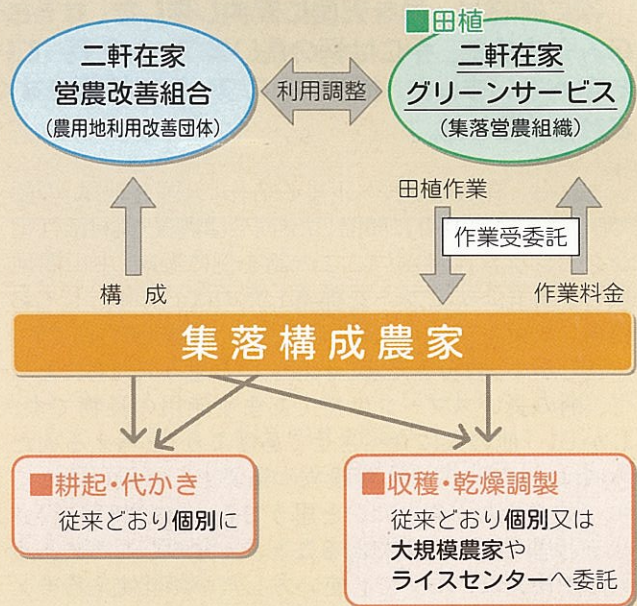
只見町二軒在家集落

「集落アンケートを実施し、ビジョンづくりを行う」

二軒在家集落では、平成17年6月1日「二軒在家営農改善組合」を設立し、集落の営農について、役員が中心となり話し合いを続けてきました。まず、集落の現状の把握・分析を行い、そのなかで特に水稻の農作業がどのような仕組みで実施されているかを明らかにしました。さらに集落一人一人の声を今後の営農に活かすため、全戸・20才以上全員を対象とした「集落アンケート」を9月に実施しました。その結果を踏まえ、水稻の農作業の今後のあり方として、『これまでの農作業の「つながり」は大切にしながら、個別に所有している農業機械は経費削減のため集約化し、効率良く農作業を進める』との方向性が見出され、集落でのビジョン(目標)の合意づくりへと発展しました。

そのビジョンの内容については次のとおりです。

- ①耕起・代かきは、ほとんどの農家がトラクタを所有しているため、しばらくは個別にトラクタを十分活用し作業を行いましょ。
- ②田植は、田植機のほとんどが歩行型で老朽化しており、農作業受託組合を組織し、新しい田植機1台で、



二軒在家の農作業のビジョン

機械経費を削減し効率良く作業を進めていきたいと思います。

- ③収穫・乾燥調製は、従来どおりライスセンターや大規模稲作農家へ委託し、大型機械(コンバインなど)への投資を抑えていきたいと思います。

田植作業の受託組織として「二軒在家グリーンサービス」が平成18年4月12日に設立となりました。

集落で出来ることから実践する二軒在家集落の「地域力」が期待されます。

(農業普及部)



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

電話 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/nourin-minamiaidu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。



この広報誌は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。